

1. 研究活動

障がい者に対するレジスタンストレーニングの効果 (4) ポリオ後症候群の場合	2013. 3	名古屋芸術大学研究紀要 第34巻	ポリオウイルスによって脊髄前角細胞が侵された患者は、弛緩性の麻痺を生じる。本邦では大半が50歳以上になっており、高齢化に伴う生活の不安を感じる者が多い。本研究では、適切に処方されたレジスタンス・トレーニングを行った患者の身体状況の変化を、アルブミン、クレアチンキナーゼ、クレアチニンを指標として評価した。その上で、適切なトレーニング処方が適用性筋力低下・筋萎縮を予防し、筋力の維持・向上に効果的である事を示した。
ロンドンパラリンピックで見た世界の障がい者スポーツの現在	2013. 3	名古屋芸術大学人間発達 研究所年報 第2巻	ロンドンパラリンピックのパワーリフティング競技に監督・コーチとして参加した際に経験し観察した現在の障がい者スポーツの到達点について報告した。同時に、ストック・マンドビル病院を訪問した際に見聞した障がい者スポーツの歴史と現在を解説した。

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 ■有 □無

3. 学会等および社会における主な活動

第9回日本ディスエイブルパワーリフティング連盟西日本選手権大会開催	2012. 6. 10	名古屋芸術大学西キャンパス 体育館 本大会はIPC公認の大会であり、国際大会に参加するために必要な公認標準記録を認定できる大会である。
ロンドンパラリンピックにパワーリフティングの監督として参加	2012. 8. 21～9. 11	London, Great Britain イギリス、ロンドンで行われたパラリンピックに、パワーリフティングチームの監督ならびにコーチとして参加した。
ロンドンパラリンピックで見た世界の障がい者スポーツの現在（講演：15時間）	2012. 10. 20	地域別県民文化大祭典 2013 オータムフェスタ夢の学校（於：弥富高校） ロンドンパラリンピックの様子を映像を使って紹介し、現在の障がい者スポーツの状況や課題を解説した。
世界の障がい者スポーツの現在（講演：2時間）	2013. 2. 1	尾張地区保健体育研究会（於：一宮市） 尾張地区の高校の保健体育教師によって構成されている研究会において、世界の障がい者スポーツの現状を、ロンドンパラリンピックを例にして紹介した。また本邦の課題についても紹介した。
障がい者と乗馬セラピー（講演：0.5時間）	2013. 2. 5	Thanks Horse Days in Nagoya（於：名古屋競馬場） 名古屋競馬場において開催された「サンクス・ホースデイ」に於いて、馬と障がい者が触れ合う催しと同時に、その効果について、動物セラピーの考え方を基にした講演を行った。